

議案第 11 号

令和 7 年度板橋区登録文化財の決定について  
上記の議案を提出する。

令和 8 年 2 月 16 日

提出者 板橋区教育委員会教育長 長沼 豊

令和 7 年度板橋区登録文化財の決定について  
東京都板橋区文化財保護条例（昭和 58 年板橋区条例第 16 号）第 4 条第 1 項  
の規定に基づき、下記のとおり新たに文化財を登録する。

記

- 1 板橋区登録文化財として新たに登録するもの 3 件
- （1）有形文化財（彫刻・歴史資料） 西光寺弘法大師像・興教大師像
  - （2）無形文化財（工芸技術） 江戸筆制作
  - （3）有形文化財（歴史資料） 紅梅小学校校史資料（追加）

（提案理由）

板橋区文化財保護審議会から、板橋区登録文化財の登録について答申があった  
ため、これを承認し文化財を登録する。



令和8年1月29日

東京都板橋区教育委員会 様

板橋区文化財保護審議会

会長 松崎 憲三



### 板橋区文化財の登録について（答申）

令和7年8月6日付け7板教生第374号の2で諮問のあった標記のことについて、板橋区文化財保護審議会で本日令和8年1月29日に審議した結果、下記のとおり意見が一致したので答申します。

#### 記

- |                      |    |
|----------------------|----|
| 1 板橋区文化財として新たに登録するもの | 3件 |
| (1) 有形文化財（彫刻・歴史資料）   |    |
| 西光寺弘法大師像・興教大師像       |    |
| (2) 無形文化財（工芸技術）      |    |
| 江戸筆制作                |    |
| (3) 有形文化財（歴史資料）      |    |
| 紅梅小学校校史資料（追加）        |    |

## 1 西光寺弘法大師・興教大師像

- (1) 名 称 西光寺弘法大師像・興教大師像  
(さいこうじ こうぼうだいしぞう・こうぎょうだいしぞう)
- (2) 所在地 板橋区大谷口2-8-7
- (3) 所有者 宗教法人西光寺
- (4) 種 類 板橋区登録有形文化財(彫刻・歴史資料)
- (5) 内 訳 2 軀
- (6) 来歴・内容及び諮問理由

西光寺は江戸時代初めに大谷口に建てられた寺院。当寺の弘法大師こうぼうだいし空海・興教大師こうぎょうだいし覚鑁かくばんの像は、真言宗の二大祖師像で一組のものとして本尊の両脇に祀られる。江戸時代の作で、制作時期を考えるうえで相関関係にあり、同じ作者の作例と比べることで、当時の仏像職人の活動の実態や、多彩な彫刻技術を知ることができる貴重な資料である。

作者の記録は各像の内側にある。弘法大師像には「靈雲寺の大仏師幸慶が制作(靈雲寺 大仏師 法橋幸慶 作)」、興教大師像には「延享4年(1747)に浅草新寺町の大仏師加藤右京が21歳で制作(廿一才ニテ作 延享四卯八月十五日 浅草新寺町 大仏師 加藤右京 作)」とある。作例は幸慶が15例、加藤右京が4例で、東京・埼玉・栃木・神奈川・千葉県に確認されている。

幸慶は襲名制で続いた仏像職人である。肩書にある靈雲寺(文京区湯島)は、江戸幕府が土地を与えて建てられた寺院で、幸慶はここに所属していた時期もあった。作品の特徴は、穏やかで整った顔立ち、衣は布の柔らかさと写実表現に長け、模様も精細である。さらに、作品の大きさは足利市最勝寺や熊谷市養平寺の作例のとおり、185 cmから8 cmほどのものまで幅広く、彫刻・着色・文様の表現技術は高度で多様である。

加藤右京の作品の特徴は、大胆な表現の顔立ち、衣の襷ひだは画一的な彫り方で「21歳」の若々しさがある。他の作例から、36歳のときには徳川将軍家の寺院である寛永寺(台東区上野)の仏像職人として活躍している。

幕府ゆかりの寺院とも繋がりがある熟達した仏像職人たちの作品が板橋にも今も大事に祀られており、当時の仏像作りの実態を語る貴重な資料として文化財登録を行うことが適切である。

●西光寺弘法大師像・興教大師像



西光寺弘法大師像 像高 30.3 cm  
江戸時代 霊雲寺大仏師幸慶作



西光寺興教大師像 像高 40.3 cm  
延享4年(1747) 浅草新寺町大仏師加藤右京作

●幸慶による作品事例



埼玉県新座市  
平林寺 地藏菩薩立像  
像高 32.3 cm  
寛延元年(1748)  
大仏師法橋幸慶作



栃木県足利市  
最勝寺 毘沙門天像及び両脇侍像  
毘沙門天像 像高 185.0 cm  
宝暦7年(1757)  
霊雲寺大仏工法橋幸慶作



栃木県鹿沼市  
正蔵院 愛染明王坐像及び厨子  
※現在の管理は埼玉県熊谷市 養平寺  
愛染明王坐像 像高 12.3 cm  
16体の菩薩坐像 像高 7.9 cm  
台座を含む総高 57.5 cm



## 2 江戸筆制作

- (1) 名 称 江戸筆制作（えどふでせいさく）
- (2) 種 類 無形文化財（工芸技術）
- (3) 保持者名 佐久間悟（さくまさとる）
- (4) 住 所 板橋区板橋三丁目 40 番 17 号
- (5) 来歴・現況

江戸筆制作の特徴は、分業制をとる関西筆とは違い、素材入手、加工、仕上げまでの製作工程全てを一人の職人が手掛けることにある。

現在、江戸筆制作は、都伝統工芸品である練馬区石神井の筆工房亀井をはじめ、北区西ヶ原の西野天祥堂、豊島区雑司ヶ谷の名村大成堂と佐久間悟氏が営んでいる鳳竹堂と限定された店舗・職人の手によるものとなっている。

佐久間悟氏は、昭和 49 年（1974）6 月に板橋区で生まれ、現在 51 歳。幼少の頃から当所で工房兼店舗の「鳳竹堂」を構えた、父・佐久間末男氏の筆製作の作業を見ながら、仕込み作業を手始めとして家業にかかわってきた。専門学校卒業後は、文化財保持者であった父末男氏の元で、仕込み作業を繰り返し行い、材料の良し悪しを覚えるなど、本格的な修業に入り、技能を修得した。現在、職歴は 30 年を超える。また、令和 4 年 3 月の末男氏の逝去後に「鳳竹堂」を継ぎ 2 代目となった。

佐久間悟氏は、叔父の七郎氏から父の末男氏、そして本人へと、3 代にわたる江戸筆制作の伝統技能を継承している。父末男氏の高度な技術を確実に修得しているが、中でも特筆する技能としては、美しく毛並みが揃うことを重視する「練りませ」技法があり、これを修得している。

以上、技術の継承、職歴、業界内外からの評価等が認められることから、江戸筆制作を区文化財に登録し、佐久間悟氏をその保持者として認定することが適切である。

佐久間悟氏



江戸筆



### 3 紅梅小学校校史資料（追加）

- (1) 名 称 紅梅小学校校史資料（追加）  
（こうばいしょうがっこうこうしりょう）
- (2) 所在地 板橋区徳丸8-10-1
- (3) 所有者 板橋区立紅梅小学校
- (4) 種 類 有形文化財（歴史資料）
- (5) 内 訳 323 件
- (6) 来歴・内容及び諮問理由

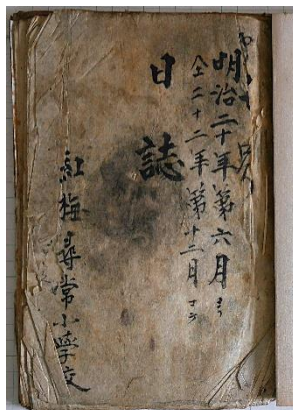
紅梅小学校は明治7年（1874）に安楽寺（徳丸8-9-1）内に設立された。同年7月19日付で私立学校として認可され、翌8月25日に「第四中学区第五番小学 紅梅学校」として公立学校の認可を受けた。区内で最初に開かれた小学校のうちの1校であり、令和6年（2024）に創立150周年を迎えている。

紅梅小学校が所蔵する校史資料は、平成19年度に271件が区登録有形文化財（歴史資料）に登録され、翌20年度に260件が追加登録された。当該資料は、創立時からの学校経営に関する文書史料や、開校百周年記念事業で集められた教科書や写真等があり、創立期からの学校教育の様子や、それを支えてきた地域の歴史を伝える貴重な資料である。

創立150周年に際し、郷土資料館において「紅梅小学校創立150周年記念展 そのかぐわしき名をあげよ～徳丸村の学び舎から～」を開催するために調査を行った。その際、すでに登録されている日誌の前年のものである明治20年の学校日誌をはじめ、創立期の資料の所蔵が新たに確認された。その他にも、創立100周年以降の周年関連の資料も保管されており、今回これらの文化財的価値を明らかにし、追加登録を行うことが適切である。

第七号 明治二十年第六月より  
明治二十二年第十二月まで 日誌  
明治20年（1887）6月19日～  
同22年12月

感謝状（学童集団疎開の  
宿寮提供につき）  
昭和20年（1945）10月



## 1 西光寺弘法大師像・興教大師像

(さいこうじ こうぼうだいしぞう・こうぎょうだいしぞう)

西光寺は約 400 年前にできたお寺です。ここには弘法大師空海・興教大師覚鑑という仏教で重要な2人のお坊さんの像があります。約 270 年前の仏像です。

職人のサインによると、弘法大師像は「霊雲寺の仏像職人幸慶」、興教大師像は「1747 年に浅草の仏像職人加藤右京、21 歳」が作ったとあります。

幸慶は江戸幕府ゆかりの霊雲寺（文京区）の職人でした。作品の特徴は、穏やかで整った顔、本物のように膨った着物、細かく丁寧な文様です。さらに 185 cm から 8 cm 程まで大小様々な仏像や豪華な飾りの彫刻も作れました。

加藤右京は、顔・着物の彫り方が大胆ですが、後に徳川将軍家のお寺寛永寺（台東区）の職人になりました。

板橋には江戸幕府ゆかりのお寺でも活躍した仏像職人たちの作品があり、これらは当時の彫刻の技や歴史を知ることができる板橋区の宝物です。

### ●西光寺弘法大師像・興教大師像



西光寺弘法大師像 高さ 30.3 cm  
江戸時代 霊雲寺大仏師幸慶作



西光寺興教大師像 高さ 40.3 cm  
1747 年 浅草新寺町大仏師加藤右京作

### ●幸慶のほかの作品



平林寺のお地蔵さまの仏像  
高さ 32.3 cm  
幸慶が 1748 年に作った  
(埼玉県新座市)



最勝寺の毘沙門天と両脇の仏像  
〈中央〉毘沙門天 高さ 185.0 cm  
霊雲寺の幸慶が 1757 年に作った  
(栃木県足利市)



正蔵院の赤い愛染明王  
※現在の管理は埼玉県熊谷市 養平寺  
赤い愛染明王 高さ 12.3 cm  
16 体の仏さま 高さ 7.9 cm  
全体 高さ 57.5 cm



## 2 江戸筆制作（えどふで せいさく）

保持者 佐久間 悟（さくま さとる）

江戸筆製作の特徴は、素材の入手、加工、仕上げまでの製作工程全てを一人の職人が手掛けることにあります。現在は、佐久間悟氏が営んでいる板橋区板橋三丁目 40 番 17 号にある鳳竹堂など限られた店舗・職人の手によるものとなっています。

保持者の佐久間悟氏は、昭和 49 年（1974）に板橋区で生まれ、幼少の頃から父・佐久間末男氏の作業を見ながら、家業にかかわってきました。

その技術は、叔父の七郎氏から文化財保持者であった父の末男氏、そして本人へと、3 代にわたり江戸筆制作の伝統技能、工芸技術を継承しています。

江戸筆製作の中で特筆する技能としては、毛筆の毛並みが美しく揃うことを重視する「練りまぜ」技法があげられますが、氏はこれを修得しています。また、技術の確実な継承、職歴、業界内外からの評価等が認められることから、江戸筆制作は区無形文化財の工芸技術としての登録、佐久間悟氏はその保持者としての認定にふさわしいものです。

佐久間悟氏



江戸筆





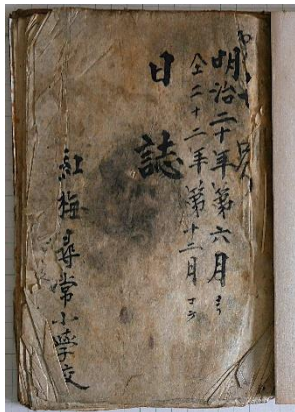
### 3 紅梅小学校校史資料（追加）

紅梅小学校は、明治7年（1874）に安楽寺（徳丸8-9-1）内に設立されました。区内で最初に開かれた小学校のうちの1校です。令和6年（2024）に創立150周年を迎え、郷土資料館で記念の展示を行いました。

そのときの調査で、学校ができたころの資料や、創立100周年以降の周年関連の資料も保管されていることが分かりました。すでに、平成19年度と翌20年度に合計531件が区登録有形文化財に登録されているので、今回は追加登録となります。

今回、追加登録するのは323件です。その中には、これまで確認されていたものより古い明治21年の学校日誌や、これまであまり残されていなかった、昭和18～20年（1943）の記録があり、戦禍が激しくなった時代の学校や地域の様子を知ることができます。学校の歴史とともに、学校を支えてきた地域の歴史を伝える貴重な資料です。

第七号 明治二十年第六月より  
明治二十二年第十二月まで 日誌  
明治20年（1887）6月19日～  
同22年12月



感謝状（学童集団疎開の  
宿寮提供につき）  
昭和20年（1945）10月

